

# H30 豊島区生活支援体制整備事業

## 【平成30年度】

- 作業部会中心に課題検討、協議会で検討内容を共有する形式で事業運営。  
作業部会での議論に共通課題が見え始める。⇒協議会で集中的に検討する方向へ

(H30年度 協議会4回、作業部会各2回合計6回開催)

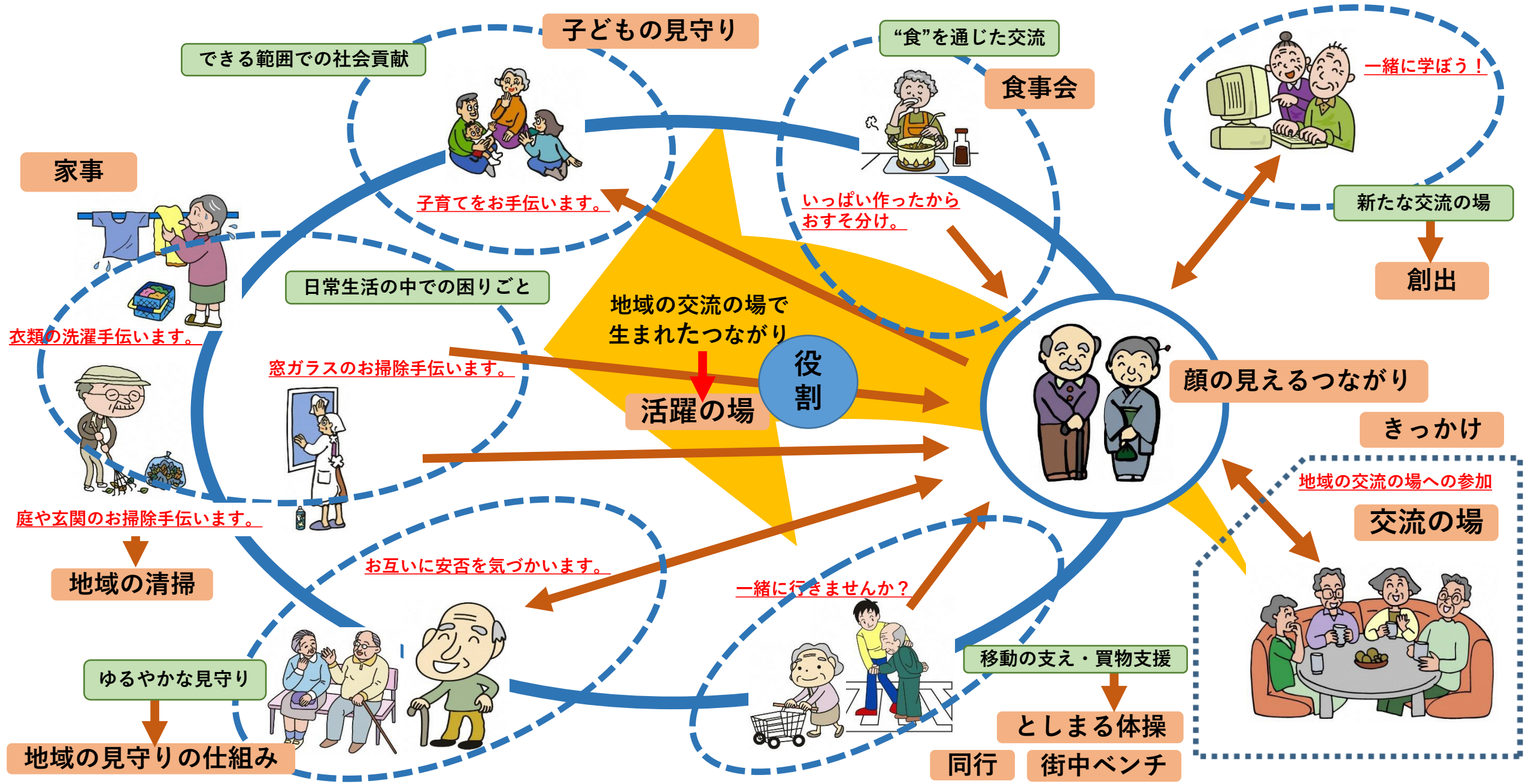
平成30年度 地域のささえあいの仕組みづくり協議会（作業部会）活動計画

■作業部会活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>作業部会①</b> <b>移動・外出支援</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動を支える街中のベンチについて、具体的に設置するモデル事例を実現する。</li> <li>・安心して、安全に歩ける街づくりという視点での発信を行う。</li> <li>・身体的な衰えによる外出意欲の喪失への対策について具体的に検討する。</li> </ul>											
具体的なモデルケースの実現に向けて検討												実践結果 のまとめ
検討内容について地域へ向けて情報発信												
<b>作業部会②</b> <b>活躍の場</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の社会参加へ向けた取り組みについて、既存の組織や団体への参加ではなく、新たな視点でのつながりについて検討する。</li> </ul>											
課題整理と先行事例研究						具体的なモデルケースの実現に向けて検討						実践結果 のまとめ
<b>作業部会③</b> <b>交流の場</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の場やボランティア活動の場などの活動実践事例の集積を行う。（地域資源データベースの活用）</li> <li>・交流の場づくりのノウハウの蓄積（「食」イベント運営など含む）、ネットワークづくり、情報の発信（区のホームページ等）を行う。</li> <li>・交流の場として活用できる新たな資源の集約と情報の共有を行う。</li> </ul>												
交流の場として活用できる拠点情報の集約（継続）・地域資源データベースの運用管理										実践結果 のまとめ		
交流の場の活動実践及びノウハウの集積・整理（継続）												



# 地域のささえあいのしくみ

## 「交流の場づくり」が地域をつなぐ（イメージ図）



# ■平成30年度 地域のささえあいの仕組づくり協議会【総括】

資料30-4-4

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
計画	<p>1 作業部会の進捗状況を共有 ⇒ 資源情報、実践情報の集約及び共有する活動                  2 ささえあいの仕組みづくりの取り組みに関する情報共有 ⇒ ネットワークを拡げる活動                  3 協議会の活動について情報発信 ⇒ 広報・啓発活動</p> <p>協議会準備 → 作業部会及び協議会の運営 → 実践結果のまとめ</p>											
実績	<p>協議会① 前年度活動の共有 作業部会の構成 会議の公開・発信提案</p> <p>作業部会① 移動外出 作業部会① 活躍の場 作業部会① 交流の場</p> <p>総合事業現況説明</p> <p>作業部会② 移動外出 作業部会② 活躍の場 作業部会② 交流の場</p> <p>協議会② 情報発信について集中的に検討する方向性を提案 情報発信媒体の現状と課題の整理</p> <p>協議会③ 課題整理と活用方法について検討 地域ケア会議全体会議報告</p> <p>協議会④ 年度総括 新年度計画</p>											
事務局の動き	<p>Ayamu運用開始</p> <p>定例打合せ（週1回）</p> <p>Ayamu操作説明会</p> <p>作業部会の課題抽出</p> <p>Ayamu運用マニュアル検討 媒体のメリット・デメリット整理</p> <p>Ayamu運用説明会 情報の流れ整理</p> <p>地域資源PTの提案</p>											
協議会での意見 新たな視点	<p>協議会① ■ 飲食を伴うイベント開催の際の保健所への相談について ⇒ コミュニケーションの問題 ⇒ 各イベントでの留意点の整理 ■ 「活躍の場」をいかに自分たちの地域の中で持てるかということを豊島区の中で考えていく時期に来ている</p> <p>協議会② ■ 作業部会からの共通課題 ・ 検討した内容を発信する必要性 ・ 「人と人をつなぐ」際に「情報」の届け方は重要 ・ 地域資源情報の活用方法が大切 ・ ネットワークづくりの際にも情報共有の仕組みはポイント ■ 個々の人と役割をつなぐコミュニティマネージャーのような存在が必要</p> <p>協議会③ ■ 情報発信媒体の活用方法について ・ コントロールの可否という視点は重要 ・ 役に立つ、得する情報が有用 ・ 知ってもらいたい情報、アクションにつながる情報の発信が大切 → 情報の精査と検証（「信頼」が重要） → わかりやすいこと → 口コミが有用な情報伝達手段</p> <p>協議会④ ■ 「誰が」「何を」「どのように」やるか 来年度の実践課題 1 作業部会で抽出した課題解決のための取組案の検討 2 地域活動団体の実践報告・交流機会の創出 3 地域資源PTの運営・地域資源情報の住民提供</p>											



作業部会での議論から見えてきたもの

テーマ	トピックス	作業部会において出された意見
①移動・外出支援 買い物しやすい 墨島区	①移動・外出の目的	・生活を維持するためにやむをえない外出を支える仕組みは必要 ・自分の生活を豊かにするために外出も大切にしてほしい
	②移動・外出の物理的な手段	・社会福祉施設の送迎車輦については①対応する人 ②燃料費 ③保険という課題に対応できれば活用できる
	③移動・外出の環境面の課題について	・歩きやすさ、人にやさしい街づくりの視点について広めていく必要がある ・民間の宅配サービスの状況について情報が共有できると良い ・ベンチ設置の具体的な提案について発信していく必要がある ・コンビニートインコーナーが何か活用できるのではないかな？ ・公園を憩いの場として活用できない状況にある
	④移動・外出の意欲面の課題について	・身体的な衰えによる外出意欲の喪失への対策が必要
②活躍の場	①検討の進め方のイメージ	・既存の資源情報の整理と洗い出しが必要 ・新たなマッチングのあり方を探る（提案、情報の場、提供の仕方）ことが重要 ・掲示板（有料・商業性、無料・地域性）で情報を得るケースも多い ・新聞、地区のタウン情報紙などで情報が届く人もいるのではないかな？
	②検討の方向性	・各種活動の情報に食いついてこない人にどうやって食いついてもらうか ⇒「あとおし」より「ひきづりだし」という視点の大切さを発信していく ・僅々の人に合わせて「役割」を見つけるのではなく、地域で「役割を発生」することからアプローチしてはどうかな？ ⇒「誰に」という部分がわからないのが現状 ・行ってらっしゃい・おかえりなさいの声をかけることが無くなってきている ⇒つながりがあったからできた役割なのではないかな？ ⇒この役割をつくと「つながり」が創出できるのではないかな？ ・僅々の人と役割をつなぐコミュニアマネージャーのような存在が必要
③交流の場 情報の発信	①交流の場の資源情報について	・交流の場の先行事例集（Story&Map）を活用し情報提供する ・地域資源データベース（Ayamu）の導入・運用し円滑な情報共有を表現したい ・「場」に応じた届け方の工夫が重要（例、「掲示板」の活用） ・情報を取り次ぐ人に情報が渡るのが大切 ・届ける対象に合わせた届け方が大切 ⇒多くの視点で掘り下げ、墨島区は情報を取りやすいという状況を目標とする ⇒情報に興味を持っている人は担い手にもなり得る人なのでは？
	②担い手同士のネットワークづくり	・地域での顔の見える関係づくりと区内での活動団体のネットワークづくりと二つの側面があるのではないかな？ ・集いの場としてのCafe等をリスト化し情報共有できるとよい
④交流・活動の場づくりについて	①交流・活動の場づくりについて	・スペース（自宅の一室、空き家、空き店舗）の活用につながる ・異業事例・改築事例の情報がつかめない
	②交流・活動の場の運営ノウハウについて	・地域の集場所をつくりたい人の支援向けに、墨島区ならでの情報について整理したものがある ・リーダー不足なので「仮になる人」づくりは必要 ・食事イベントを実施する上での保健所との調整方法の情報が必要

大切な視点や検討した内容を発信していかないと生きてこない

集めた情報を使える状態にしなければならない

例えば、機能維持を目的とした体操などができる場の情報が必要な人に届いているかな？

情報発信のあり方の基本的な課題から検討していくイメージ

「人と人をつなぐ」際に「情報」の届け方は重要  
⇒「誰に」「何を」「どのように」  
この情報を持っていない

地域資源情報の活用方法が大切

ネットワークづくりの際にも情報共有の仕組みはポイントとなる

まだまだ情報が不足しているのではないかな？

運営ノウハウについては、どの団体も手探り、ノウハウの情報共有は大切

作業部会での議論から見えてきたもの

- ①作業部会の議論の中でたくさんの意見や視点が示されてきたが、どの話題についても「情報発信」「情報共有」という共通のキーワードが根底にある。
- ②今年度の協議会の活動計画においてささえあいの仕組みづくりの取り組みに関する情報共有と協議会の活動について情報発信をテーマとしている。
- ③「情報発信」についての基本的な仕組みをまずはしっかりと作り上げておくことが大切。

共通テーマ

**「情報発信について」**

- ・情報の整理と蓄積
- ・情報発信、共有の手段

「誰に」「何を」「どのように」届けるのか？

①情報発信の現状の評

今回のテーマ

②これからの情報発信のあり方

アイデア出し

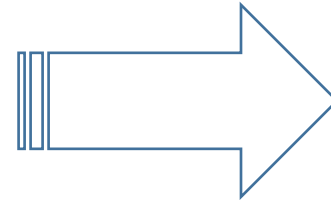
③今後、何を現実させるか？

出されたアイデアの具体化へ

# 情報が届きにくい人のイメージ



本人が必要としていない



【その要因？】

Aさん

- ・ 経済的には困っていない
- ・ 概ね健康
- ・ 人とのかかわりは薄い
- ・ 漠然とした不安はある？  
(日常生活、健康面)

情報は届かない！

情報

本人が意識していない  
(本人としては困っていない)

周りにいる人も意識していない  
(本人にまかせている)

情報は目にしているが正しく理  
解ができていない

専門職XはAさんにその情報が必要  
だと考えているが・・・

- ・ 潜在的なニーズが見えにくい
- ・ もし、Aさんが困っていたとして  
も、Aさんの周りにいる人に意識  
がなければAさんが自分で情報を  
取りにいかねばならない。

もしAさんがその情報を知っていれば、今よりも  
暮らしやすくなるに違いないと考えている。  
きっと役に立つ情報だから届けたい！

# 情報が届きやすい人のイメージ



本人が必要としていることを発信できる

誰かがニーズをキャッチしてくれている

→ 自分で要求を発信できる人のところには、情報が届きやすいのではないか？

例えば・・・

民生委員

他にこのFace to Face の輪に入れそうな人は？

→ 町会関係・近隣住民、関係機関（包括・社協）、日常生活を支える産業に関係する人 などでも、常に近くにいる人がいいのでは？

- どこに誰が住んでいて、どんな家族構成なのかを知っていれば情報を届けやすい
- 顔見知りの民生委員なら扉を開けてくれる
- 高齢者が抱える不安を聞き取り、その不安を取り除くこともできる

情報にアクセスできない人たちには、誰かが情報を届ける必要がある

Face to Face のコミュニケーションの活用

他に何か方法はないか？



# 情報を届きやすくするためにできること

## 情報機器のコンセプト

### 開発 コンセプト

「自立支援」「健康維持」「介護者支援」「バリアフリー」  
「ユニバーサルデザイン」「共有化」

### 配慮方向

(身体面) 「軽量である」「単純である」「連続性がある」  
「融通性がある」「安全である」  
(心理面) 「親和性がある」「達成感がある」  
(魅力付け) 「親和性がある」「ステータス性がある」

## 「やさしい日本語」で伝える

情報にアクセスできる人には、伝わりやすさを

弘前大学「やさしい日本語」運動（災害時の易しい日本語マニュアル  
例・・・「余震」→「あとで来る地震」  
「緊急避難」→「急いで逃げろ」  
「炊き出し」→「温かい食べ物を作って配る」

## Face to Face のコミュニケーションの活用

情報にアクセスできない人たちには、誰かが情報を届ける必要がある

# 利用可能な情報発信メディア

出典（『月刊福祉』2018.Sep、P15、P19）

※生活支援Coにより一部改変

アナログメディア	マスメディア	インターネットメディア		
情報誌 チラシ ポスター DM パンフレット 報告書 冊子 ファクシミリ 掲示板	テレビ ラジオ 新聞 雑誌 書籍 映画 CATV コミュニティFM ミニFM	Webページ アプリ	メッセージング  LINE メール SMS	ソーシャルメディア ※参考  SNS  Facebook Twitter Instagram mixi

## ※参考 ソーシャルメディアの種類とサービス例

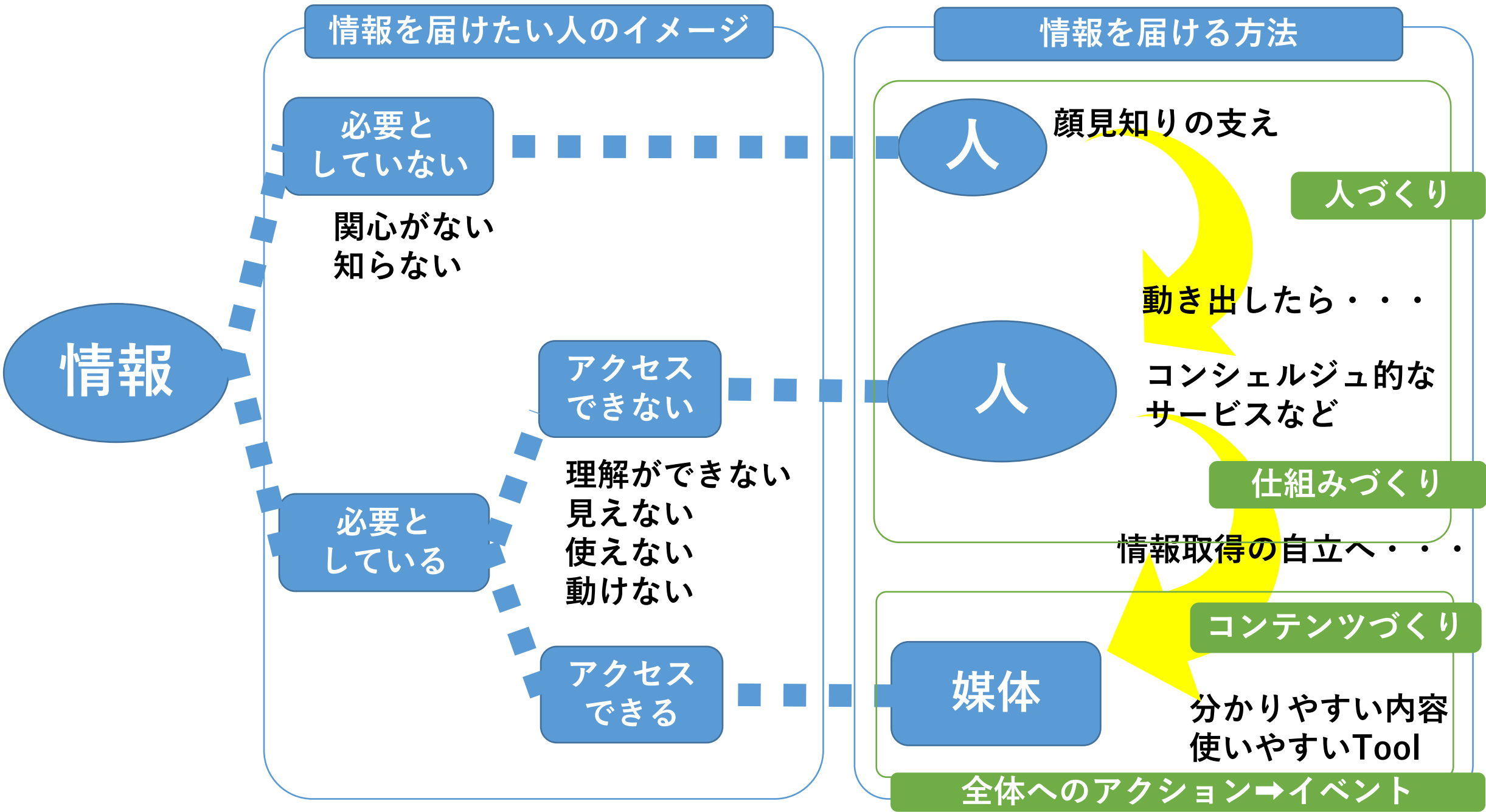
No.	種類	サービス例
1	SNS	Facebook、Twitter、mixi、Instagram、Linkedin、GREE
2	ブログ	アメーバブログ、ココログ、Seesaaブログ、ライブドアブログ
3	ネット掲示板	2ちゃんねる
4	動画共有サイト	YouTube、ニコニコ動画、ツイキャス、Vine、TikTok
5	画像共有サイト	Pinterest
6	情報共有サイト（口コミ）	価格.com、食べログ、クックパッド
7	QAサイト	Yahoo!知恵袋
8	ソーシャルブックマーク	はてなブックマーク
9	メッセージングアプリ	LINE、WhatsApp、Viber、WeChat、Skype

## ソーシャルメディアとは

ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、動画共有サイトなど、利用者が情報を発信し、形成していくメディア

メディア接触時間の構成比は、  
 2006年 マスメディア 79.9 インターネット 20.1  
 2018年 マスメディア 49.6 インターネット 50.4

## →アナログからデジタルへの移行過渡期



# としまの情報発信のしくみ

地域の支え合いの仕組みづくり協議会 2019.03

資料30-4-1

